

# JIC インフォメーション

第 193 号 2017 年 10 月 10 日  
年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行  
1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 [jictokyo@jic-web.co.jp](mailto:jictokyo@jic-web.co.jp)

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジューニア



## ロシア・旧ソ連 国際交流誌



ロシア旅行の一コマ。(上左) 函館・ウラジオ姉妹都市 25 年、(上右) 福井県・極東ロシア写真展、(中) モスクワ航空ショー、(下左) モスクワの巨大ショッピングセンター、(下右) マトリョーシカ制作現場

### 【報告】ロシア映画祭 in 東京

最新ロシア映画一挙 7 本を上映 . . . . . 2P

### 【特集・ロシア旅行記】

函館・ウラジオストク姉妹提携 25 周年ツアー . . . . . 5P

「福井県と極東ロシア 船の架け橋」写真展 . . . . . 6P

MAKS (モスクワ航空ショー) 観覧ツアー . . . . . 8P

ロシア革命 100 周年ツアー . . . . . 12P

### 【留学】ウクライナでのロシア語短期研修

. . . . . 藤田勝利 (上智大学ロシア語科) . . . 10P

### 【情報】モスクワから日帰り・リャザンの旅 . . . . . 13P

ペテルブルグ キッチンスタジオ . . . . . 13P

### 【講演録】シベリア抑留とシベリア出兵

平和を願い、謝罪と慰霊の旅 . . . 横山周導 . . . 14P

キルギスでの日本語教師 募集続行中 . . . . . 16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会) 会員を募集しています。  
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

10 月 2 日から 7 日まで、ロシアの最新映画を上映する「ロシア映画祭 in 東京」が開催された。お台場・アクアシティのユナイテッド・シネマでの「ピッチ」を皮切りに、水道橋の全水道会館、ロシア大使館のコンサートホールと会場を移しながら、「好青年」や「白夜」など、話題の新作映画が次々と上映され、好評を博した。映画祭の開催に合わせて来日した映画監督やプロデューサーたちが各会場でトークを行い、日ロ映画交流のまたとない機会となった。

## ロシア映画祭 in 東京



# 「白夜」など最新映画7本を上映

主催はロシア文化省とモスクワの映画会社「God Kino 社」(セルゲイ・ノヴォジーロフ社長)。コーディネートをしたのは、JIC モスクワ事務所の元スタッフで現在は DX Group (旅行・イベント・コンサルティング会社)の代表ドミトリー・トカチェンコ氏。有能なコーディネーターで日本語通訳でもあるドミトリーさんから依頼されて、JIC もロシア映画祭の企画と準備にかかわることになり、映画祭実行委員会の事務局を担うことになった。また、一般社団法人ユーラシア国際映画祭の増山麗奈監督、映像プロデューサーの田島瑠采奈さんらが、準備期間実質 1 週間という超切迫した状況下で会場探しから設営、当日の運営まで、映画祭の実現に多大な協力をしてくださった。

### 各会場とも連日ほぼ満席

映画祭の作品リストは右表のとおり。初日の「ピッチ」こそ宣伝期間の不足で 100 名弱の入りだったが、2 日目からは連日 150 名前後と会場をほぼ満杯にする観客が集まった。中でも話題作は最終日の「白夜」。ロシアの通信社「スプートニク」で事前に紹介されたこともあり、「満員御礼」で受付ストップするほどの盛況だった。

「東京で新作ばかりを集めたロシア映画祭が行われる。上映される 7 作品はいずれも 2015 年から 2017 年に撮影された新作ばかり。……、スプートニクが 7 作品から選んだ「目玉」は『白夜』。この映画は今年 6 月、第 39 回モスクワ映画祭で初公開されたばかり。いつまでも暮れることのない夏のペテルブルグの街歩きを撮ったものだが、観る者にはもちろん、文豪フォードル・ドストエフスキーの同名の作品『白夜』に登場する悲劇的な運命の若者を想起させる。

夢見がちな青年フォードルが白夜のペテルブルグの町を彷徨う中で魅力的な女性、ナースチャに出会う。……、ふたりの陽気でクレージーな街歩きが始まる。フォードルはナー

スチャに恋をする。が、やがて苦々しい失望の瞬間が訪れる。……」(スプートニク 2017 年 9 月 27 日配信)

こんな風に紹介されたら誰だってこの映画を見てみたくなるというものだ。せっかく申し込んでいただきながら定員オーバーで参加をお断りした皆さん、本当にごめんなさい。

### 来日した映画監督らが会場でトーク

映画祭の終了後、自身も映画監督であるノヴォジーロフ社長はしみじみとこう語った。

「南米でロシア映画祭をやったことがある。残念ながらあちらの人はロシア映画にほとんど興味を見せてくれなかった。中国での映画祭には結構たくさん集まったが、すべて上からの指示で動員された人たちで、ロシア映画を心から楽しんでいるようには見えなかった。今回の日本では、これだけ多くの人がロシア映画を見ようとして集まってくれたことに本当に驚いた。しかも、上映後のトークにも熱心に参加してたくさん質問をしていただいた。映画人として嬉しい限りだ。」

「ロシア文化省は、南米や中国で映画祭をやるのと同じ基準でしか日本の映画祭の予算を認めなかった。日本の物価や事情など何もわかっていない。ここに今回の映画祭のロシア側主催者としての最大の困難があった。この点でも日本側協力者の皆さんの献身的な努力に感謝したい。これを教訓に、次はもっと上手く、もっと刺激的な映画祭を準備したい。」

映画祭の準備過程では様々なトラブルが発生して一時は開催そのものが危ぶまれたのだが、終わってみれば、「ロシア映画祭 in 東京」は、ノヴォジーロフ社長が言うとおりの、大成功を収めたと言うことができる。

### 紆余曲折の映画祭準備

ここから先は筆者の勝手な判断と感想を織り交ぜた舞台

裏の話だが、おそらくロシア文化省には、昨年 12 月のプーチン訪日・日ロ首脳会談を受けて「日本との文化交流を拡大せよ」という何らかの指示があったのだろう。5 月末にロシア映画祭の開催が突然決まった。

そして 6 月初旬から会場探しが始まった。お台場のユナイテッド・シネマ(300 席)での開幕がまず 6 月末に決定したが、予算の制約から全 6 日間のうちあとの 5 日間はもう少し小規模で費用のかからない会場を探すことになった。しかし、そこから先が全然進まない。拙速とも言える急な映画祭の開催決定にも関わらずロシア特有の官僚的手続きの遅延で資金が一部しか届かず、ロシア大使館コンサートホール以外の他の会場予約ができないのだ。ついに開催を諦めかけたところでようやく資金が振り込まれたのだが、今度は空いていたはずの会場が時間切れで予約できない。この土壇場の危機を救ってくれたのがユーラシア映画祭の増山監督。奇跡的に全水道会館の大会議室(定員 164 名)を借りることができ、開催 1 週間前になってようやく開催要項が決まって観客募集を開始することができた。

### 1 週間で集客～実感した「ネット社会」の威力

9 月 25 日の深夜から参加者募集を始めたので、文字どおり『1 週間』の勝負だった。チラシは印刷したが、もはや配布している人手も時間も無い。ツイッター、フェイスブックで映画祭情報を発信し、関心を持ってくれそうなロシア関係者、映画関係者へ手当たり次第にメールを送って、参加を呼びかける。在日ロシア人コミュニティにも情報を送り参加と協力を呼びかけた。

世の中が「ネット社会」になっていることを本当に実感したのはこの時だ。26 日の早朝にはツイッターを見た人から早速参加申込みが入ってきた。わずか 2 日間で各会場とも 50～60 名の参加者が集まり、その後も増え続けた。「これはいける！」と確信した瞬間に、新たな問題が発生した。ロシア大使館が参加人数を 50 名までしか認めないという話が伝わってきたのだ。大使館との折衝には主催者である God Kino 社ノヴォジーロフ氏とコーディネーターのトカチェンコ氏がロシアから直接電話とメールで連絡に当たっていた。大使館の文化交流担当責任者のコンスタンチン・ヴィノグラードフ氏は、「変な人」が入ってきたら困るとセキュリティ上の問題を理由に入場枠を 50 名に限定すると主張し、頑として譲らないと言う。その時点で、大使館での「叙情」の鑑賞希望者はすでに 100 名を超えていた。慌てて受付を一時中断し、「大使館との交渉で増枠が認められれば」という条件付きの仮受付に変更する。9 月 30 日にトカチェンコ氏らロシア側関係者が来日して 10 月 1 日以降大使館でヴィノグラードフ氏と直接交渉しても状況は変わらなかった。その間にも参加希望者は増え続け、150 名を超えた。

## ロシア映画祭 in 東京

(上映リスト)

- 10 月 2 日「ピッチ」(КОРОВКА)  
監督エドゥアルド・ボルドゥコフ／2015 年作品／99 分／  
ジャンル＝ドラマ、スポーツ、コメディ
- 10 月 3 日「好青年」(ХОРОШИЙ МАЛЬЧИК)  
監督オクサナ・カラス／2016 年作品／95 分／  
ジャンル＝コメディ
- 10 月 4 日「トリ」(ПТИЦА)  
監督クセニア・バスカコフ／2017 年作品／90 分／  
ジャンル＝ドラマ、ミュージック
- 10 月 5 日「叙情」(ЛИРИЗМЫ)  
監督ニコライ・ブルラク／2016 年作品／64 分／  
ジャンル＝コメディ
- 10 月 6 日「緑の馬車」(ЗЕЛЕНАЯ КАРЕТА)  
監督オレグ・アサドゥーリン／2015 年作品／93 分／  
ジャンル＝ドラマ
- 「ドリームフィッシュ」(РЫБА-МЕЧТА)  
監督アントン・ビルジョ／2016 年作品／80 分／  
ジャンル＝ドラマ、コメディ、スリラー
- 10 月 7 日「白夜」(БЕЛЫЕ НОЧИ)  
監督タチアナ・ヴォロネツカヤ、アンドレイ・ボガティリョフ／  
2017 年作品／97 分／ジャンル＝ドラマ(フォードル・ドストエフスキーの同名小説をもとにして)

### 不可解な「大使館文化交流担当」氏の決定

大使館のコンサートホールには 240 も座席があるのに、何故、入場者を 50 名に絞る必要があるのか？セキュリティの問題を言うなら、そもそも何故、大使館での映画祭開催を認めたのか？最近のロシア大使館では、日ロ交流団体のセミナーや展覧会などが頻りに開かれており(現に、今回の映画祭の前後には、『琥珀 展示・販売会』が 1 週間にわたって開かれていた)、大勢の関係者が出入りしている。何故、ロシア映画祭の日本人入場者だけが 50 名でなければならないのか、理由がまったくわからない。「変な人」が入ると困ると言うが、ヴィノグラードフ氏こそが「変な人」なのではなからうか。

ヴィノグラードフ氏は日ロの映画交流、文化交流は最小限でいい、必要ないとも考えているのだろうか？それともただのサボリ癖で、人数が増えて煩雑な仕事が増えるのが嫌なだけなのだろうか？ロシア文化省と God Kino 社からの「どの会場も参加者で一杯にしてくれ」という要請に答えて全力で取り組んできた日本側協力者の努力を一体何だと思っているのか。文化交流を担当するロシア大使館の当の責任者が、映画祭の最大の障害物ないし妨害者になっている現実に愕然とせざるを得なかった。

日本外務省や他の省庁の中にも、「日ロの経済交流や文

文化交流は必要ない」「ただ領土を返せとひたすらロシアに圧力を加えればいいのだ」と考える官僚がいないわけではない。同様に、ロシアの外務省や軍事・治安官庁の官僚たちの中にも「日ロ交流は必要ない」と考える官僚たちがいるだろうことは想像に難くない。しかし、在日ロシア大使館の文化交流担当責任者がそのような行動をとるとは想定外だった。これは一種の職務放棄ではないのか。このような「文化交流担当」氏の妨害によって、これまでどれほどの交流案件の実現が阻まれたのだろうか。

ノヴォジーロフ氏に交渉を任せていても、お役人に弱い民間人の立場では成果は望み薄だ。10月3日午前に予定されていた彼の大使館訪問はヴィノグラードフ氏の『不在』(居留守)で話し合いにすらならなかった。もう待てない。ついに腹をくくって、ヴィノグラードフ氏と直接交渉することにした。「あくまで50名に制限するなら、せっかく申込んでくれた150名以上の参加者に説明がつかない。5日の大使館での映画祭は中止にせざるを得ない。その責任はすべてあなたにある。明日4日に予定している記者会見で、日本とロシアのマスメディアにあなたの理不尽な入場制限の決定とこの間の事実をすべてありのまま公表することにする」と脅迫した結果、ヴィノグラードフ氏は入場枠をしぼり50名から100名に拡大することに同意したのだった。

結局、10月5日の大使館でのロシア映画祭は、あらかじめ名簿を提出した日本側参加者100名に、ノヴォジーロフ氏らロシア代表団が『当日招待』した十数名と実行委員会『スタッフ枠』で入場した十数名、それにロシア大使館が招待した十数名を加えて、総勢150名程度で開催されることになった。会場にはまだ十分な余裕があったにもかかわらず、仮受付していた50名近い人たちに3日の深夜、涙をのんで「申し訳ありません」のメールを送らざるを得なかった。

交渉過程で、ヴィノグラードフ氏は「私はタダで協力しているのに、非難される覚えはない」とも繰り返した。ならば、一定の見返りがあれば、もっと協力してやるということか？市場経済の悪しき拝金主義はロシアの官僚組織にも蔓延しているのだろうか。

以上が、今回の「ロシア映画祭 in 東京」の顛末である。「日ロの文化交流」と言えば美しく聞こえるが、実際の交流現場の裏側では、このようなギリギリのつばぜりあいが行われているのだということも、交流活動に携わる人には知っておいてほしいと思う。

### 日ロ映画交流「可能性の芽」が広がる

他にも、日本の日常生活ではあまり考えられない小さなトラブルがたくさん発生して、久しぶりに極めて「ロシア的な日々」を送ることになったが、今回のロシア映画祭で良いこともたくさんあった。

その第1は、連日150名ものロシア映画好きがわずか1

週間で集まるほどの潜在力が、私たちのすぐ身近に存在していることがわかったことだ。そして、その潜在力を現実化する方法もどうやら私たちは手にしつつあるようだということもよくわかった。



上映後の映画監督らとの交流会(10月5日)



第2に、今回の映画祭を通じて、日本とロシアの若い映画関係者の出会いと交流が実現し、今後の協力につながる可能性の芽が生まれたことだ。まずは、今回の映画祭で上映された7本の最新映画の版權を獲得して、再度、今度はもっと規模を大きくして日本で上映する可能性を探ることが検討され始めている。God Kino社が毎年9月にロシア極東のブラゴベシェンスクで開催している映画祭「アムールの秋」に日本の映画関係者が参加する話も出てきた。様々な可能性が見つかった映画祭でもあった。

第3に、多くの協力者のボランティア的活動によって、この映画祭が開催され、実際に運営されたことだ。このような文化交流活動においては、協力者の支援は欠かせない。協力者は多ければ多いほどよい。準備をしっかりとやれば、さらに多くのボランティアが現れるであろうという確信と勇気も今回、得ることができた。

最後に、「ロシア映画祭 in 東京」に協力し、また参加してくださったすべての皆さんに感謝したい。定員枠の関係で泣く泣く参加をお断りした皆さんには大変申し訳ありませんでした。必ず近い将来、またこのような企画を実現し、その時は真っ先に案内を差し上げたいと思います。ありがとうございました。(ロシア映画祭実行委員会; 伏田昌義)

## 《特集・ロシア旅行記》

読者の皆さんからいただいた旅行記、報告記です。今年もたくさんの方が、ロシアでそれぞれに楽しい思い出をつくられたようです。

### 函館・ウラジオストク姉妹都市提携 25 周年記念

# 2017ウラジオストクの旅

大渡 涼子

(ロシア極東連邦総合大学函館校総務課長)

はじめはただ、「ウラジオストクに行きたい！」という私の単純な思いだけだった。私にとっては2009年10月、極東大学110周年記念式典に訪れて以来であり、その際は学生とともに当時の極東大学から中央広場までオケアンスキー通りをパレードした。式典のクライマックスでクリーロフ学長が、極東国立総合大学がロシアで3番目となる連邦大学に昇格することを発表した。キャンパスをルースキー島に移すなど今後の発展を大いに期待させる内容であった。

事実、2012年アジア太平洋経済協力(APEC)首脳会議開催のため、ルースキー島には国際会議場を備えた立派な建物が整備され、終了後には極東連邦大学のキャンパスとして生まれ変わった。各国代表の宿泊施設は学生寮となった。ウラジオストク中心部からルースキー島を結ぶ二つの大きな橋が架けられ、利便性が上がった市民から歓迎された。そんなキャンパスの様子、新しいウラジオストクを私はこの目で見たかったのだ。

### 姉妹提携 25 年「じゃあ、今年行っちゃおうか」

ちょうど今年が函館とウラジオストクが姉妹都市提携を結んで25周年にあたる。それに今年のお盆休み、仕事は6連休となる。「それじゃあ今年、行っちゃおうか」、そんなことを思いついたのは、2月初めのことであった。まず旅行会社に相談してみたところ、スケジュール的には今年から成田ーウラジオ便が就航したオーロラ航空を利用するのが良さそうだ。プロペラ機だが、値段もシベリア航空(S7)より数万円安い。世界各地でテロが頻発するこの頃は、ウラジオストクは「日本から一番近く、比較的 안전한ヨーロッパ」として人気があるという。現に3月に申し込んでも日本人に人気の第一希望のホテルは満室で、私たちは古くからあるワンランク上のホテルヴェルサイユに泊まることとなった。

かねてより私の気がかりだったのは、函館校のロシア語市

民講座受講生のみなさんは一生懸命修練を積んでいるのに、日常でロシア語を使う機会がほとんどないということだった。現地でロシア語の腕試しをしてほしい、街の空気を肌で感じてほしい。



鷹巣展望台より金角湾に架かる黄金橋をのぞむ

### 行きたい人が集まった 10 名の旅行団

そこで3月初め、本当に簡単な日程と予算で旅行の計画を立て、市民講座受講生と函館日親善協会会員の皆さんに提示したところ、すぐにまとまった数の参加希望者が現れた。

結果、市民講座6名、親善協会4名、極東大学職員2名(一部重複)プラス千葉県在住の作家で今年のロシアま

つりで講演していただいた山口ミルコさんを加え、10名からなる市民訪問団ができ上がった。しかも10名すべてが自腹である。だから



写真、姉妹都市ゲートの前で(上)  
ロシア人留学生とも街歩き(下)

本当に行きたい人が集まったのだと思っている。そのほか、興味はあったが家庭や仕事の事情で断念した人もいたので、予想以上の反響があったと

言えよう。

みなさんの希望を聞くと、私と同じくウラジオを再訪したいという人、現地で古い友人に会いたいという人、このためにパスポートを取得して初海外という人もいた。私は思い付きで始めたことに責任を感じ、だったらみんなが心から楽しめる旅に、そしてそれぞれが自分でロシア語を話し、自由に街を歩けるスケジュールにしようと考えた。日程は8月11日(金)～16日(水)の5泊6日が基本であるが、個人の都合で早く行く人、早く帰る人もあり、4パターンと融通を利かせた。

ロシアが誇る世界的指揮者ワレリー・ゲルギエフが芸術監督を務める話題のマリンスキー沿海州劇場で観劇したい、ルースキー島にできた世界最大級の水槽を持つ水族館「オケアナリウム」に行きたい。黒澤明監督の映画「デルス・ウザーラ」で有名な探検家アルセーニエフの家にも行きたい。本屋さんに行く、市場にも行く。全員が同じ予定ではなく、興味がないところは別行動、疲れたらホテルで休む。だけど夕食はなんとなくみんなが集まり、グルジア料理やウズベク料理といった日本ではあまりお目にかかれないものも堪能した。最初は私の立てた自由な計画に不安を抱いていた人も、旅の途中からそれは払拭されたようで、全員がとても楽しかった、また是非行きたいと言ってくれたので、私は「この訪問団を組んでよかった」と心から思った。



APEC(アジア太平洋経済協力会議)会場にて

念願の新キャンパス訪問では、広大な敷地を案内してもらい、APECが行われた会議場にも入れてもらった。ここは今年で3回目となった東方経済フォーラム(9月6日～7日)の会場でもあり、日本からは昨年に続き、安倍首相が出席した。会議場の円卓に座ってもよいとの許可を得て、調子に乗った私たちは、それらしく握手などして記念撮影した。

現在は法学部長となったクリーロフ先生が一行を出迎えてくれた。街の様子は随分と変わり、私たちもそれなりに年を取り、それぞれの立場も変わった。だけどお互い大切にしてきた友情はこの25年間、変わらない。それを再認識した旅であり、今後もこの関係が続いていくことを切に願う。

## 『福井県と極東ロシア 船の架け橋』写真展

永田 康寛 (福井県日・ロ親善協会)

一昨年、福井県日・ロ親善協会は設立40周年を迎えました。これを記念して『福井県と極東ロシア 船の架け橋』("Корабль-мост между префектурой Фукуи и Дальним Востоком России") 写真展を9月12日から14日までウラジオストクのFESCO(極東船舶公団)の博物館である"Исторический Фонд ДВМП"において開催しました。



本協会は、ロシア極東地域と敦賀港間を運行していたFESCOの定期貨物船の船員と「武生ロシア語教室」の受講生との交流が一つのきっかけとなり1975年に設立されました。

当時、福井県では生きたロシア語を聞きたくても、ロシア語を話すソ連の人は誰もいませんでした。このため私たちロシア語教室の受講生は在大阪ソ連総領事館を訪問したり、敦賀港に入るFESCOの定期貨物船を訪問したりしてその機会をつくっていました。私たちのロシア語学習の環境はこのような具合でしたので、FESCOの定期貨物船は、私たちにとって、お茶付きの第二の「ロシア語教室」でした。船長を始めとする乗組員たちは度重なる訪問にも拘わらず、私たちを友人としていつも温かく迎え入れてくれました。

協会設立の機運はこのようにして高まり、故・戸泉米子女史を中心に設立に向けた準備が進められました。

ソ連船の船員の方々は、本協会前会長の戸泉米子女史にとって、彼女が青春時代を過ごした、そして当時外国に閉じられた街であったウラジオストクの現状を知るための唯一の情報源でもあったようです。いろいろな通りの名前や

その通りの風景を話しながら、彼女の大切な場所が現在どのようになっているのかということを知りたい人々に聞いていたことを思い出します。

戸泉米子女史は浦潮本願寺最後の住職である戸泉賢龍氏(故人)の夫人で、「武生ロシア語教室」の講師はお二人が務めてくださっていました。戸泉夫妻は、ロシア語だけでなく、ロシア人の普段の生活やウラジオストクの街のことなど、いろいろなことについて話してくださいました。



「私がしなければならないことがいっぱいあるの。でも、私の時間には限りがあるのよね」と戸泉米子女史はよく言っておられました。彼女の大切なふるさとのウラジオストクのために彼女がしなければならないこと、そして彼女にしかできないことがあまりにも多かったのだらうと思います。

最近になって、彼女がしなければならないと思っていながら時間が足りなくてできなかったことがあることに私たちは気付きました。それは、訪船をとおして私たちと交流を深めた、そして、彼女がふるさとのウラジオストクのためにしようすることをいろいろ手伝ってくれたFESCOの船員の方々に感謝の気持ちを伝えることでした。

設立40周年を記念し開催した写真展と元船員との交流会は、FESCOの皆様のお骨折りのお陰で、大変な賑わいとなりました。

元船員の方々は勿論のこと、船舶関係の功労者の方々、ウラジオストク市の国際部長さん、それに歴史学のゾーヤ・モルゲン先生、沿海地方地域公共団体「日本友好協会」のブーラヤ会長、写真家のリュドミーラ・デニソフナさんなど、多くの方々がお集まりくださいました。日本文化愛好会前会長のユーリー・シャーシンさんは遙か遠くのブリャンスクから飛行機でお越しいただき、会場へは最終日の閉館1時間前の到着となりました。

写真展の開会式は主催者である本協会会長とFESCOのカルチャノフ第一副社長の挨拶に始まりました。そして在ウラジオストク日本国総領事館総領事の笠井様とウラジオストク日本センター所長の向井様からそれぞれご祝辞をいただき、会場のテープがカットされました。

会場内は久々の再会を喜び合う人たち、写真展と交流会の準備をした人たち、そして、写真展を見に来た人たちの賑やかな会話で溢れかえりました。大成功です。

私たちが計画した写真展の実現に向けてFESCOと私たちとの間を取り持ってくださいました在ウラジオストク日本国総領事館の高柳領事、そして、この計画に関心を持ち全面的な支援をしてくださいましたFESCOのカルチャノフ第一副社長、FESCO側の準備を全て進めてくれた第一副社長秘書のユーリヤさんと互いに成功を喜び合いました。

ご出席いただいた皆様にご挨拶をしながら、このような集まりがいつか実現することを米子先生は待ち望んでいたのだらうな、少しは先生に喜んでいただけたかなと思うと、成功の喜びの中で涙が少し込み上げてきました。

この写真展は、9月14日まで本協会とFESCOとの共催で開催しましたが、FESCOがそのまま引き継ぎ同博物館の設立55周年記念日の10月23日まで常設展として展示することとなりました。そしてその後も、「Корабль-мост между префектурой Фукуи и Дальним Востоком России」というコーナーを新たに設けて展示して下さることとなりました。

ウラジオストクにお出かけの際には、是非、同博物館にお立ち寄りいただき、これらの写真をご覧いただければ甚だ幸いです。日本のことが大好きな館長のナタリヤさんがきっと笑顔で館内を隅々まで案内して下さると思います。

## JIC ロシアセミナー

今年の JIC ロシアセミナーでは、ドストエフスキーを現代によみがえらせ、一大ブームを巻き起こした亀山郁夫先生に、「ロシア革命 100 年～その文学的・思想的背景」と題して講演していただきます。併せて、ロシア留学「説明・相談会」を開催します。

**講演;ロシア革命 100 年～その文学的・思想的背景**

**講師; 亀山郁夫先生(名古屋外国語大学・学長)**

**日時; 17 年 11 月 18 日(土) 13:30～17:00**

**講演会; 13:30～15:00**

**ロシア留学相談会; 15:15～17:00**

**会場; 新宿オークタワー1F 会議室**

(地下鉄丸ノ内線「西新宿」徒歩 2 分)

**参加費; 無料**

**申込先; TEL 03-3355-7294**

e-mail= [jiectokyo@jic-web.co.jp](mailto:jiectokyo@jic-web.co.jp)

**主催; JIC 国際親善交流センター**

## MAKS(モスクワ航空宇宙サロン)観覧ツアー

# 大空を舞う圧巻の デモフライト

神保 泰興(JIC 東京)



7 月 19 日(水)から 7 月 24 日(月)まで、MAKS(モスクワ航空宇宙サロン)観覧ツアーの添乗に行ってきました。2009 年より開始したこのツアーも今回で 5 回目となります。

MAKS は 1993 年から隔年で実施されており、今年が 13 回目になります。今回から会場が開始以来ずっと行われてきたジューコフスキー(ラメンスコエ)飛行場から別の場所に変更になるとの噂があり、どのような運営になるかとやきもきしていたのですが、結局従来通りの開催となりました。

モスクワの南東部に位置するジューコフスキー飛行場までは、市内中心部からバスで 1 時間半程度。当日は一般観覧者だけでなく国内外の要人も会場に向かうため、市内からの道路には全面的な交通規制が敷かれます。往路・復路ともに一方通行規制や、指定された駐車場所(事前購入した特別駐車券に記載)によって通行可能な経路が決められ、辻々に立つ警官が交通整理に当たっています。特別駐車券のない多くの参加者は、近隣のヴィコヴォ空港の近くに設けられた一般用駐車場か、近郊電車のジューコフスキー駅からシャトルバスに乗り換えることになります。

## ゲートの周りにはもうロシア機がズラリ

途中何度か渋滞につかまりつつ、会場のジューコフスキー飛行場に到着しました。入場口は一般入場者用の第 1 ゲート、VIP 専用の第 2 ゲート、団体バス・シャトルバス用の第 3 ゲートと、3 か所に分かれています。私たちは第 3 ゲート近くの第 4 駐車場にバスを止めました。この第 3 ゲートは通常「イルューシン・ゲート」と呼ばれています。ゲートの周りの敷地にロシア製旅客機イルューシン 96 や輸送機イルューシン 76 などのテスト機が並んでいて、会場敷地内に入る前から、窓越しにシャッターを切る音があちこちから聞こえてきます。

バスを降りてゲートに入ると、まずセキュリティチェックがあり、金属探知機とエックス線検査を受けます。ガラス瓶と魔法瓶は持ち込みできません。次に入場券を提示します。入場券に印刷されたバーコードをスキャンしてから半券が切られます。すぐそばに当日券販売のキオスクが 2 箇所ありますが、来場者が並んでいる様子はありません。当日券は割高

なので大半の来場者は前売券を買ってきているようです。

次は ID カードの発行ポイントです。MAKS は、平日は航空業界関係者を中心とした「トレードデー」(業界向け公開日)と、週末の「パブリックデー」(一般公開日)に分けて開催されています。このポイントはトレードデーだけのものですが、氏名、国籍、メールアドレス、所属、役職、業種、来場目的、どのように MAKS を知ったか、などをアンケート用紙に英語かロシア語で記入すると、その場でストラップ付の ID カードが発行されます。前回まではプラスチックのカードで、よい記念品になりましたが、今回は台紙に氏名と所属がプリントされたシールを貼るだけの簡素なものに変わっていました。これで入場手続きは完了です。今回のツアーで私たちは計 3 回(「とことん MAKS」オプション参加の方は 4 回)入場しましたが、いつもほとんど待つことなくスムーズにゲートを通り抜けることができました。毎回、開場時間前には会場に到着していてもありますが、以前は入場に 1 時間以上待たされるのが何度もあったので、運営側も経験を積んでいろいろ工夫しているようです。

## まずはデモフライトの予定を確認

会場中央に位置するマネージメントオフィスで当日のデモフライト・プログラムが発表されるので、入場後まずはそこを目指して 500 メートルほど歩きます。途中の誘導路上にはたくさんの地上展示機が並んでいます。懐かしいツポレフ 154 型旅客機やロシア自慢のリージョナル機・スホーイ・スーパージェット 100、大きなレーダードームを背負ったイルューシン A-50 早期警戒機、攻撃ヘリコプター・ミル 28 やカモフ 52、最新鋭戦闘機・ミグ 35 とスホーイ 30、そしてちょっと懐かしい戦闘機ミグ 23 やスホーイ 15、爆撃機ツポレフ 22M、ツポレフ 95、ツポレフ 160 等々。早速、みんな足止めされてしまいます。

また、その一角には、日本のトヨタタイヤとドイツのオーディオが出展したサーキットコースが設けられており、トヨタスーパーブラと日産シルビアが爆音をとどろかせながら派手なドリフト走行を披露していて、多くの観客を集めていました。誘導路を 15 分ほど歩いて会場中央のマネージメントオフィス



に到着。ここで当日確定したデモフライト・プログラムが配布されます。MAKS のウェブサイトにも情報は載っているのですが、変更が多いので、一番確実な情報を得るにはこのプログラムの入手が必須です。デモフライトの開始時間は、トレードデーは午後 2 時頃から、パブリックデーは午前 11 時頃からです。

### 特別観覧席「メディアプラットフォーム」

このマネージメントオフィスは、特別観覧席「メディアプラットフォーム」の手続きと、シャトルバスの出発場所でもあります。MAKS の一般観覧場所は滑走路の北側に位置するので、太陽の方向にデモフライトを見ることになり写真を撮るのには不向きです。そこで滑走路を挟んだ反対側にこの特別観覧席が設けられているのですが、入場券は非常に高価です。ツアーでは、希望者のために事前手配したのですが、今回は当日券も販売していました。特別観覧席の定員は 100 名ほどで、軽食や飲み物なども出ます。しかし、やはり写真を撮るための最前列は早い者勝ちになるようです。入場券を購入していても、改めてこのマネージメントオフィスで登録手続きを行う必要があります。

### ロシア航空機産業の見本市でもある航空ショー

会場内にはいたるところにお土産や飲食の屋台が出店しています。ただし、飲食の値段は結構高く、フランクフルト 200 ルーブル(約 400 円)、コーヒー 180 ルーブル(約 360 円)といった値段でした。会場内で椅子のあるスペースは、プレスセンター隣の格納庫を利用したカフェテリア方式のパブリックレストランだけです。やはり値段は高めですが、日差しが強いせいもあり、デモフライトがない昼時などはかなり混んでいました。

レストランの背後には、F-○○の番号が付けられた各航空機会社や部品メーカーのパビリオンが並んでいます。MAKS は単なる航空ショーというよりは、ロシアの航空機産業全体の見本市としての性格が強いということが、このパビリオンを巡るとよくわかります。私たち一般の航空ファンにとって特に注目なのは F1、ロシアの航空機メーカーが集められたパビリオンです。ミグ、スホーイ、ツポレフ、イリューシン、

ヤコブレフといった各設計局がブースを出していて、きれいなパンフレットや戦闘機のプロマイドなどを、美人コンパニオンが無料配布してくれています。他にもミサイルやレーダー、宇宙服のメーカーなどの展示があります。海外のメーカーでは欧州、アメリカからの出展もありましたが、とりわけ中国のメーカーが目立っていました。野外スペースには、S-400 防空ミサイルシステムなどの展示もあります。

### 圧巻のデモフライト

会場内には、かなり立派な常設トイレがあり、こまめに清掃しています。また仮設トイレもいたるところにあり、困ることはありません。

パブリックデーになると、パビリオン群の斜め左手に屋台村がオープンし、お土産の他にシャシリク(串焼きバーベキュー)やプロフ(中央アジア風ピラフ)なども楽しむことができます。やはり値段は高く、豚のシャシリクをひと串(400グラムくらい)頼んだら 900 ルーブルも取られてしまいました。パビリオン奥には VIP 用観覧席の建物が、建物の先には芝生が広がっており、その向こうは滑走路です。芝生にはたくさんの家族連れがレジャーシートの上で寝そべっていて、売り子たちからビールを買ったりしながら、デモフライトの開始を待ちわびています。

デモフライトが始まりました。ビートの効いた音楽と DJ のアナウンスに乗って、次々と戦闘機やヘリコプター、そしてスホーイ・スーパージェット 100 といった大型機が、爆音をどどろかせて滑走路を飛び立ち、軽快なデモフライトを披露します。ロシアのステルス戦闘機・PAK-FA T-50 も今回は 2 機が同時に飛び、ひととき大きな歓声が上がっていました。アクロバットチームの「ロシアンナイツ」は今回から戦闘機スホーイ 30 に機材を更新してフライトを披露しました。高空に一気に駆け上がってから木の葉のようにひらひらと舞い落ち、再び姿勢を直したかと思うと一気に飛び去るといった、およそ飛行機とは思えないような機動を見せてくれました。他にもミグ 29 戦闘機で編成された「ストリージ」や、最新鋭のスホーイ 35S 戦闘機の「ソーコル・ロッシ」のふたつのアクロバットチームが青空を彩りました。

### 次回 MAKS は「パトリオットパーク」で会いましょう

報道によると、ここジューコフスキー飛行場での MAKS の開催は今回が最後となり、次回 2019 年からは現在整備中のモスクワ南西部・クビンカ市にある「パトリオットパーク」で開催されるようになると言われてしています。新たな MAKS がどのような形で開催されるのか、少し不安もありますが、航空機大国ロシアの地位が不動である限り MAKS はこれからも見応え十分のイベントとして実施されていくものと期待しています。もちろん JIC は次回 2019 年 MAKS 観覧ツアーも実施する予定です。是非 2 年後を楽しみにしてください。

## 【留学記】 ウクライナでの短期ロシア語研修

## キエフのロシア語留学事情

藤田 勝利

(上智大学ロシア語学科・4年生)

2017年3月にウクライナ的首都・キエフで1カ月間ロシア語の短期留学をしました。研修先は、タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学です。

学費は1ヶ月で2500グリブニャ、日本円で10000円するかしらないくらいの安さでしたが、授業はかなり高レベルなロシア語範囲を扱っており、自分としてはとても満足できる学習環境でした。

## 授業料は安い授業内容は高レベル

クラスは、最初にどのレベルの授業を受けたいかを聞かれ、実際にクラスの授業に参加してみて決めることができます。テストや面接は全然ありませんでした。授業の時間は13:00～17:20と午後に設定されており、各国から来た外国人学生と一緒に授業を受けます。自分のクラスにはチェコ人、スペイン人、トルコ人、イタリア人がおり、日本人は自分を含めて2人しかいませんでした。

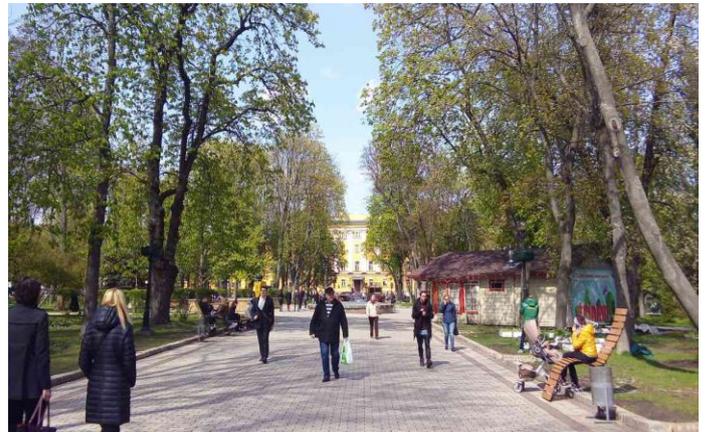
授業内容は、文法、ウクライナの歴史を題材にした文章の読解、早口言葉を用いた発音矯正など、中上級者向けの内容でした。とりわけ文法の授業は高度な文法事項を扱っており、ロシア語力をさらに伸ばしたい人にお勧めです。もちろん初心者クラスもありますが、ある程度のロシア語力がないと授業を受けさせてもらえないこともあるようです。

キエフ言語大学にも問い合わせたのですが、学期ごとに学費を納めるシステムで、1カ月間の留学でも減額されないため、キエフ国立大学を選びました。しかし、キエフ言語大学の学費も半期で500ドルと日本では考えられないくらい安く、授業は国立大学とは逆に会話中心の内容だったので、ニーズに合わせてどちらの大学にするか決めるといいと思います。

## キエフの街を歩く

キエフ国立大学の本校舎は写真の通り真っ赤で、夜に見ると迫力があって見応え充分です。また町の中心部に位置しているので、授業のあとは徒歩で気軽にキエフのきれいな街並みを堪能することができます。大学の目の前にタラス・シェフチェンコ記念碑公園があり、多くの学生や市民たちの憩いの場となっています。

公園と大学の横を走るタラス・シェフチェンコ通りには、昼



キエフ国立大学本館(上)とタラス・シェフチェンコ記念碑公園(下)

と夜で違う印象を見せる聖ヴェロディーミルスキー聖堂や国立シェフチェンコ記念博物館、今年日本ウクライナ国交樹立25周年を記念して日本からのサクラが植えられた自然公園などがあります。そして通りはキエフのメインストリートであるフレッシュャーティク大通りにぶつかります。フレッシュャーティク大通りを北に1kmほど行ったところがユーロマイダン革命の中心となった独立広場です。

## 簡単に借りられる賃貸アパート

住居ですが、1カ月間の短期滞在だったので、自分はアパートの部屋を借りて暮らしてみました。

アパートの借り方は、現地の不動産屋のホームページにアクセスして条件の合いそうな部屋を見つけ、部屋のホストに電話して見学させてもらう、実際に部屋を見て気に入ったらその場でお金を払うといった感じでした。日本のようにいろいろと書類を書く必要はありません。部屋の家賃は1日20ドルでしたが、都心に位置していて、とてもきれいで快適な部屋でした。アパート探しでは他の部屋もいくつか見てみましたが、短期だと1日平均25ドル程度で都心にきれいな部屋を借りることができるようです。

## 西部の町・リヴィウを訪ねる

友人に誘われてウクライナ西部の町にも行ってみました。キエフから電車で5時間ほど西に行くとリヴィウに着きます。リヴィウは歴史上ポーランドやオーストリア、ロシアなど様々な国に支配された町なので、一見ヨーロッパ風の街並みですがいたるところに様々な文化の混ざりあいを感じることができます。たとえばそれは、アルメニアにあるはずのアルメニア教会だったり、カトリックと東方正教会の伝統が混ざり合った変容教会(ユニエイト教会)であったり、オーストリアの占領時代にフランス人とポーランド人の建築家が建設した宮殿だったりとあげればキリがありません。

リヴィウの旧市街全体がユネスコの世界遺産に登録されているので、そういったヨーロッパ文化の混在を感じながら街を歩くとそれだけで楽しいです。



写真:リヴィウの旧市街(上)、カメネツ・パドールスキー(下)

エンターテインメント性に富んだ場所も数多くあります。

1 つ目はクリイフカです。ここは第二次大戦中に存在したレジスタンスのアジトを利用したカフェレストランで、実際にアジトっぽく傍目ではどこにあるか分かりません。仮に見つけたとしても合言葉を言わないと入れてもらえません。合言葉を言ったらショットグラスでお酒をあいさつ代わりに飲みます。そしてようやく店の中に入れます。店内に入ると、細い通路を抜けられるようになっていて、その先に食事ができるカフェレストランがあります。店内では基本的にロシア語は禁止です。話すと秘密警察のような人に捕らえられて牢屋

に連行されてしまいます。また店内には大戦中に実際に使用されたスパイ兵器が展示されているエリアがあり、大戦中の雰囲気を感じることができます(\*編集部注)。

2 つ目はマゾカフェです。行ってみるとその名の通りの場所で“誰がこんな場所に行くのだろうか?”とってしまったのですが、実はこのカフェは現地の人だけでなく外国人観光客にも人気なんだとか。気になる方は自分の目で確かめてみてください。

最後のおすすめはリヴィウのチョコレートです。

ウクライナでは львівська майстерня шоколаду (ルヴィブスカ・マイステルニャ・シヨコラドゥ) というチョコの店がチェーン展開しているのですが、その本店がこのリヴィウにあり、高品質でおいしいチョコを手頃な値段で購入することができます。店内にはチョコ・カフェもあり、チョコ・フォンデュなどが食べられます。

## 素晴らしいカメネツ・パドールスキーの景観

リヴィウからさらに東南へバスで5時間ほど行くとカメネツ・パドールスキーという町に着きます。

友人曰く、「キエフ、リヴィウまでなら日本人も知っているけど、カメネツは知らないだろう」。

そのとおりで日本人どころかアジア人の顔も見ませんでした。しかし、それはもったいないと言えるほどの景観がカメネツにはあります。カメネツ・パドールスキー要塞とそこから眺める自然の絶景です。この要塞は中世に建てられ、長い間この地が近隣諸国に支配された歴史を見ることができます。要塞の近くには小さな旧市街がありバーやレストランでウクライナ料理を楽しむことができます。

このようにウクライナには首都キエフだけでなく様々な場所に素敵な街並みが点在しています。

### \*編集部注;

リヴィウを中心とする西ウクライナは、歴史的にポーランドやリトアニアとの関係が深く、反ソ連(反ロシア)感情が強く、また反ユダヤ主義の伝統の強い地域だった。第二次大戦でヒトラー・ドイツがソ連に侵攻した時、住民たちはドイツ軍に協力して反ソ・レジスタンス戦争に参加しただけでなく、ドイツ軍とともに大量のユダヤ人狩りと虐殺を行った。リヴィウを訪ねる時はこのような歴史背景も頭に入れておくとよい。「アジト・カフェ」がそのような過去の戦争の記憶を誇示するためだけのものでないことを祈りたい。

一方、反ロ意識が強い西部に対して、ウクライナ東部はロシアとの経済的結びつきが深く、ソ連時代にはミサイル、航空機を含むソ連軍事産業の一大拠点だった。また実際多くのロシア人が住んでおり、親ロ意識が強い。

この東部と西部の対ロシア感情の違いがウクライナという国を引き裂いている。東部と西部の地域対立がユーロマイダン革命とその後のウクライナ紛争の背景に存在していることを知っておきたい。

## ロシア革命 100 周年

# 歴史の足跡を訪ねる旅

今年の夏にちょっと面白い企画ツアーを実施しました。「ロシア革命 100 周年 歴史の足跡を訪ねる・モスクワとペテルブルグ 7 日間の旅」。

「ロシア革命 100 周年」と銘打ってはいますが、内容はいたって普通の観光旅行。モスクワではクレムリン観光やサーカス見物、ペテルブルグではエルミタージュ美術館、エカテリーナ宮殿、ピョートル夏の宮殿など世界遺産を巡りました。ただ、ちょっと違うのは、それら通常の観光日程に、革命の指導者レーニンの遺体を安置したレーニン廟や、冷戦時代の核シェルターを博物館にした冷戦博物館(BUNKER-42)、現代史博物館のロシア革命特設展示、そしてモスクワ現地でのミニ・セミナーなどが付け加わっていたことです。

「今どきロシア革命に興味のある人っているんだろうか」「こんなマニアックなツアーに人が集まるのかな」という不安をよそに、なんと18名もの参加者が集まり(無理矢理集めたという噂もありますが)、8月22日から28日までツアー催行となりました。

1917年10月ロシア革命で誕生した社会主義ソ連は1991年12月に解体し、ロシアが資本主義国に変わってから四半世紀が過ぎました。20世紀において社会主義ユートピアの思想は全世界に巨大な影響を与え、これに対抗する資本主義側も福祉国家論や混合経済体制など、大きな修正を余儀なくされました。しかし、ユートピアの夢破れたあと、ロシアでは荒々しい国家資本主義の波が社会を席卷しました。社会主義の夢の跡と現在のロシアの姿をありのままに見て、ささやかながらも歴史を検証してみようというのが今回の企画ツアーの目的でした。

モスクワでは旧知のアナトリー・コーシキンさん(歴史学博士、ロシア戦略策定センター上級研究員)にお願いして、「ロシア革命から100年、社会主義ソ連と資本主義ロシアに生きて」というテーマで話をしていただき、参加者と一緒に夕食会を持ちました。

以下、コーシキンさんの発言要旨を掲載して、この企画旅行の報告に代えさせていただきます。

### 社会主義ソ連と資本主義ロシアに生きて

#### アナトリー・コーシキン

ロシア革命から100年、この革命に意味があったのでしょうか? 「ロシア革命はレーニンを首謀とするクーデターだった」という評価がソ連解体後に一時はやりました。実際にはロシア革命は広範囲な社会変革を伴う革命でした。この出来事は全世界に大きな影響を与えまし

た。無料の教育、医療、住宅…、革命後のソ連はとくに社会保障の分野で優れた成果を収めました。

ではなぜソ連社会主義は解体したのか? ソ連時代の70年間は戦争の重圧に苦しみ続けた70年間でした。革命後の内戦、第2次大戦、そして冷戦。「米ソ対立」と



#### レーニンもチョコの表装になる100年目

それでもソ連時代は基本的な生活物資と社会保障が人々に提供された社会で、それなりに安定していました。しかし、外国を見ると生活水準の低さを感じる。「無料の教育や社会保障はそのまま維持して、もっと質の高いモノが欲しい。自由に外国に行きたい」というのがソ連時代の一般市民の望みでした。

しかし、ソ連解体後に出現したのはきわめて「野蛮な資本主義」でした。すべてが有料になった。無料の医療も教育もなくなった。あらゆるものが値上がりしました。ソ連時代には、家賃は光熱費や電話代を含めても収入の3%程度しかかからなかった。今は収入の半分以上が家賃に消えます。とくに年金生活者は大変です。

資本主義ロシアの現実を踏まえて、最近ではソ連時代を再評価する気分が人々に生まれています。これは私も驚いたのですが、最近の世論調査で「スターリンを肯定的に評価する」回答が56%もありました。もちろん、人々はスターリン時代の弾圧、粛清、強制収容所などの事実をよく知っていますし、それが正しいものだったとは思っていません。膨大な犠牲がありました。しかし、それでもスターリンはわずか15年間で遅れた農業国であり内戦で破壊された国を急速に重工業化し、工場、コンビナート、港湾、発電所などを建設し、ヒトラードイツに打ち勝ちました。

今、人々はソ連時代にもどりたいたとは思っていませんが、資本主義の便利さと社会主義の安定をミックスした社会を望んでいると思います。そのためには、新自由主義の行きすぎた市場経済、貪欲な資本主義を改善しなければならないと思います。これはロシアだけの問題ではありません。経済改革による社会の安定が必要です。

言われましたが、実際にはソ連はアメリカと西側すべてと対峙せざるを得なかった。軍事バランスを維持するために膨大な負担が必要でした。結局、ソ連は軍備競争の重圧に耐えられなかったのです。

## モスクワから行く

# 日帰り・リャザンの旅

チステリーナ・イリーナ (JIC モスクワ)

モスクワ近郊には歴史のある素敵な町がたくさんあります。セルギエフ・ポサード、スーズダリ、ウラジーミルなどの古都が点在します。リャザンもその一つです。リャザンへの日帰り旅行を紹介したいと思います。

リャザンはモスクワから南東に約 190km 離れています。ロシアでは第 28 番目に大きな都市です。

モスクワからエクスプレスに乗って 3 時間ぐらいかかります。モスクワ・カザンスキー駅の出発時間は朝 7 時 12 分なので、少し早いかもしれません。

11 世紀、リャザン公国の首都・リャザンは、現在のリャザン市から 50km 離れたところにありました。当時、現在のリャザン市のある場所はペレスラヴリ・リャザンスキーと呼ばれました。タタール・モンゴル侵攻の後、首都がペレスラヴリ・リャザンスキーに移されて、1778 年にエカチェリーナ 2 世がリャザンと改名し、現在に至っています。

リャザンにもクレムリンがあります。クレムリン内には 8 つの教会が残っています。その中で一番有名な教会はウスペンスキー寺院です。ウスペンスキー寺院は 17 世紀に建てられました。高さ 72m で、壁の厚さは 2m を越えます。寺院はレースの白石の彫刻で飾られました。17 世紀において、そのような石の彫刻は珍しいものでした。

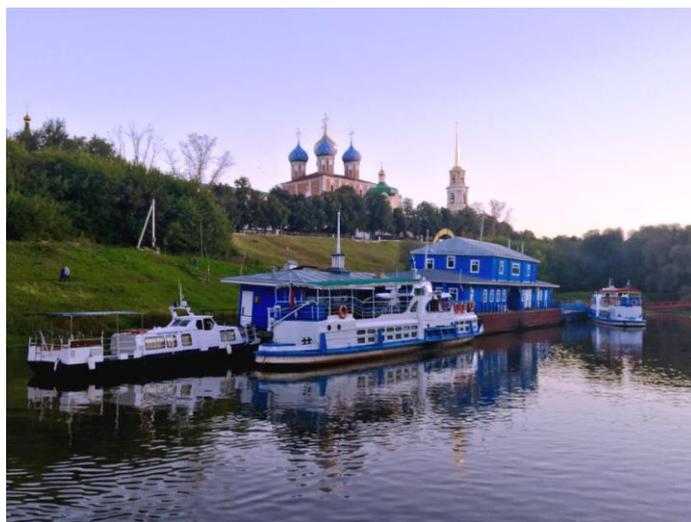
クレムリンの近くには船着き場があって、そこから川を下ってまたもどってくるクルーズも体験できます。クルーズは 1 時間半ぐらいかかります。

今年の 9 月にリャザンでキャンディ博物館がオープンしました。博物館には、ロシアの砂糖製造の歴史資料が展示されています。入場者はキャンディの作り方を見学し、自身でキャンディをチョコレートで飾る体験をして、紅茶と一緒にお菓子を食べることができます。

観光の後でお腹が空いたら、オススメの食事スポットがあります。「ネボ」というレストランです。レストランは 7 階にあり、食事をしながら、リャザンの風景を眺めることができます。夏には、屋根なしベランダに出て、楽しむこともできます。メニューの種類は多く、料金はモスクワより少し安いです。

モスクワ行きのエクスプレスの終電は 16 時 53 分です。午前 10 時過ぎに着いて、1 日リャザンを観光することができます。レストランから駅まで歩いて帰る途中には、ロシア木造建築のある公園を楽しむことができます。

リャザンを是非訪れてみてはいかがでしょうか？



船着き場から見るリャザンのクレムリン

## ペテルブルグの穴場スポット

# キッチンスタジオ

山下 篤美 (JIC ペテルブルグ)

キッチンスタジオ「Живи вкусно」は、兄アルチョム、弟アレクセイのビノグラート兄弟が経営するサンクトペテルブルグの新名所です。シェフのアルチョムを中心とした料理学校として名が知れていますが、同時に一般人向けの料理教室も開催しています。

キッチン以外に、リビングダイニングのスペースも兼ね備えているので、受講生たちが、自ら作った料理をゆっくりと楽しむことができ、会社のイベントや、新しいスタイルの誕生会としても利用され、人気を呼んでいます。

また、日本から料理人を招いた和食教室の開催、在サンクトペテルブルク邦人のためのロシア料理教室の実施など、近年は日本とのつながりも増えています。

マリンスキー劇場からも近いため、最近では、旅行者対象のロシア料理教室という問い合わせも来ているそうです。

包丁や、鍋釜はもちろん、オリジナルのエプロンもありますので、身一つで参加できるのが、参加者には嬉しいところです。

「エルミタージュ美術館」や「血の上の教会」といった有名な観光地もいいけれど、もっと深くロシアを知り、楽しみたいという方、あるいはペテルブルグに惚れこんで 2 度目、3 度目の訪問を計画していらっしゃる方、是非、ペテルブルグでロシア料理に腕をふるってみませんか。

キッチンスタジオ ; ул. Союза Печатников, 28/29, Санкт-Петербург, 190121 <http://live-tasty.ru/>

## 日ロ友好愛知の会「第2回 ロシアサロン」

8月11日、名古屋国鉄会館にて、日ロ友好愛知の会「第2回 ロシアサロン“シベリア”」の講演会が行われました。

講師は、第二次大戦で従軍されシベリア抑留体験を持つ日比野藤雄さんと横山周導さんの2人。ここでは紙面の都合上、ウラジオストクの南のポシェット地区で武装解除されコムソモリスカヤで2年間の抑留生活を送った横山周導さん(岐阜県揖斐川町・勝善寺住職、ロシアとの友好親善をすすめる会代表)のお話をご紹介します。



## シベリア抑留とシベリア出兵

# 平和を願い、謝罪と慰霊の訪問を重ねて30年

**横山 周導**(岐阜県揖斐川町・勝善寺住職、  
ロシアとの友好親善をすすめる会代表)

シベリア抑留中に死没した方々の墓参の旅を通して体験したことをお話しさせていただきます。

私は昭和19年(1944年)10月に軍隊に入りました。20年の8月まではごく普通の軍隊教育を受けておったのですが、8月9日のソ連軍の参戦と同時に非常召集を受け、そして8月24日まで戦争をしました。24日まで終戦のことは聞かされなかったのです。場所は満州国境です。ウラジオストクの南にあるポシェット地区の西にコンチンという開拓村があって、その部隊にいました。コンチンには岐阜県郡上郡の人たちが入植していました。

### いじめが横行するきつい軍隊生活

日本の軍隊(陸軍)は大変きつい教育をする。古年兵のいじめとか制裁が随分とありました。何せ軍隊で持つ物には全部「菊の御紋」(天皇の紋章)がついています。これが口実になる。演習中には雪や雨をかぶります。あとで剣先が少しでも錆びついていたら手入れがなっていると殴られる。冬はマイナス30度の世界ですからペチカを焚く。ペチカの前で当番に立っているとどうしても眠くなる。居眠りでもしようものなら、持っている銃を上げ下げする『捧げ銃』を当番の間中ずっとやらされる。「上官の命令は朕の命令」ですから、反論は許されない。わずか1年足らずの軍隊生活ですが、そんな体験をしました。

それで、8月9日に非常召集を受けて、私たちはゲリラ戦をやったから、8月15日の『詔勅』は知らずにおりました。国境を越えて入ってくるソ連軍をポシェットのところで迎え撃つわけです。ソ連＝ロシアが入ってきたと言いますが、

敵軍のトラックは全部アメリカ製でした(第2次大戦ではアメリカがソ連軍に大量の物資援助を行った)。

### コムソモリスクで抑留、バム鉄道建設2年間

8月24日に停戦命令を受けて武装解除され、それから1カ月くらいは野営して、国に帰るのを持っていた。迎えが来たと言うので、ポシェットから貨車に乗せられました。中はもう寝場所がないくらいのぎゅう詰め、おそらく3日以上もかかってハバロフスクの東のコムソモリスクに連れて行かれました。ここはアムール川のほとりですから「こんなところから船で帰るのか」と言っていたら、そうではなかった。鉄条網で囲まれた強制収容所に入れられました。部隊長から「3年か5年かわからんが、ここで暮らすしかない。絶対に早まったことはするな」と告げられて、みんな怒ったり消沈したり大騒ぎですが何ともしようがない。

抑留生活に入ったとき、私は21歳になったばかりでした。コムソモリスクでバム鉄道(第2シベリア鉄道)の建設に2年間従事しました。私の場合、運よく比較的早く帰れたほうです。

抑留生活では3つの苦しみがありました。一つは寒さ。マイナス30度、40度の世界では、朝歩くとまつ毛が凍るのです。鼻、耳、指先は常に凍傷の危険がある。二つ目は飢えです。食事が足りない。ヒエやキビの粥、牛か馬のような食事でした。これで大木を切ったり、トラックに積んだりするわけですから、寒さの中で非常に過酷な労働でした。三番目は労働のノルマです。達成しないとパンが十分にもらえない。達成度によってパン1日250gとか300gとかあるのですが、最高は450g。これを達成するのは大変なことでした。それでも日本人たちは労働作業の工程を分割して見せかけのノ

ルマを増やしたり、実質作業量を減らしたりして、うまく立ち回っていました。

### シベリア出兵、日本人に知らされなかった真実

2年で国に帰ったわけですが、そのあとは学校の教師をしていました。シベリアへの墓参りを始めたのは38年たった1985年からです。斎藤六郎さんが会長をされていた全国抑留者補償協議会(全抑協)に参加して、初めてハバロフスクへ墓参りに行きました。ハバロフスクには200人ほどの死没者の墓がある。そこで僧侶としてのお勤めをさせていただきました。それから毎年のように全抑協の墓参りの旅に参加しました。当時は未確認の墓所が多く、抑留者の墓を探して回る旅でもありました。

斎藤六郎さんが1991年にアムール州のブラゴベシェンスク近く、イワノフカという村を訪ねたときのことです。「この辺に日本人の墓はないか」と問うと、村長が「日本人の墓など知らぬ。あなた方はこの村のことを知って来たのか？」と大変な剣幕です。「村の裏に建っている石碑を見ればわかる」と言うので見てみると、「1919年3月22日、この村で日本兵が300人以上の村民を虐殺した。そのうち36人は生きのまま小屋に押し込められて焼き殺された。この恨みは永遠に忘れない。」と書いてある。斎藤さんはびっくりして、「このような事実を知らずに来て申し訳なかった。シベリア出兵の真実を日本政府が国民にちゃんと知らせてこなかったことも問題だ。」と、なんとかイワノフカ村の人たちと仲直りをするために4年がかりで話し合っ、日ロ共同の石碑を建てたわけです。高さ8mの石碑です。

### 日ロ共同で建てた『懺悔の碑』

石碑の頂上にはロシア式の十字架を立て、日本人がシベリア出兵で村を焼き多くの人を殺害したことへの懺悔、さらにソ連が戦後日本人60万人を抑留しうち6万人を死亡させたことへの懺悔、この両方を書いた。『懺悔の碑』ができて、日ロ共同で追悼式を行ったのは1995年7月のことです。ところが斎藤会長はこの年の11月に亡くなってしまわれた。7月の追悼式でお勤めをした縁で、私が斎藤会長の後を引き継いで、その後毎年謝罪と慰霊の旅を続けてきたわけです。シベリア出兵の際の日本軍兵士の残虐行為に対するロシア人の反感を知り、日本人として恥じると同時に、将来日本とロシアが仲良くするためには、どうしてもこの謝罪と慰霊の旅を続けなければならないと思いました。それから何年か経って、村長が「今では日本人に対する恨みは全くない」と言ってくれるようになりました。

イワノフカ村の隣のタンボフカ村にはロシア人が建てたロシア式の墓ですが、16人の日本人の墓があります。アムール州内には約20の日本人抑留者の墓地があり、州平和委員会のワシリー議長(3年前に逝去)がその整備に尽力して



講演する横山周導さん、  
左は日比野藤雄さん

くれました。まだ半分ほどしかお参りできていないのですが、どの墓もきれいに整備されていて、訪れるたびに現地の人たちが交流会を開いてくれます。今年も8月22日からハバロフスクとイワノフカ村を中心に約10カ所のお墓参りをしてくる予定です。

来年はシベリア出兵から100周年。私はもうすぐ93歳です。来年が最後になるかもしれません。100年目の鎮魂祭を是非イワノフカ村でやりたい、できれば30名以上の参加者を募ってロシアを訪れたいと思っています。

### 命あるものは皆同志なのです

私の体験を聞いていただいて、やはり自分の立場、立脚点をはっきりさせなければならないと思います。イワノフカ村のウス村長を何年か前に日本に招待したことがあります。その時、村長はこう言いました。「この地球上で命あるものは皆同志です。」

皆が太陽の恵みを受け、同じ水と空気を共有している。あなたが飲んだ水は巡り巡って私が飲む水になり、あなたが吸って吐いた空気は私が吸い次の人に渡す。だからこそ、戦争をやってはならないのです。戦争をやれば地球が潰れてしまう時代です。何年かかっても話し合いで平和を求めなければならない。武器は持たない。使ってはならない。命あるものは皆同志なのです。

このことを肝に銘じたいと思います。(当日の講演メモをもとに文章化しました。文責はすべて編集部にあります。)

\* \* \*

なお、元海軍通信兵で北千島・幌筈(パラムシル)島と占守(シムシユ)島で米軍電波の傍受・解読の諜報活動に従事し、敗戦後マガダンで4年間の抑留生活を送った日比野藤雄さんからは、外国電波の傍受を通じて戦況の悪化と日本の敗北は海軍ではよくわかっていたこと、しかし、1945年8月15日の玉音放送は陸軍には伝わっておらず、8月17日から占守島に上陸してきたソ連軍と日本軍(陸軍第11連隊)との間で激しい戦闘が行われ多数の死傷者を出したこと(同21日に中央からの指令でようやく戦闘終結)、その後のマガダンでの零下30度の世界での抑留生活などが詳しく話されました。

## キルギスでの日本語教師

### 1名が10月に出発

### なお募集続行中です!

前号のインフォメーションで日本語教師募集の記事を載せたところ、嬉しいことに4名もの方が応募してくださいました。しかし、実際に異国の地にボランティアで飛びこむとなると、いろいろとクリアすべき条件もあり、結局10月から1名、元JICロシア語講座受講生の三田譲さん(千葉県我孫子市在住)が赴任されることになりました。日本とは気候も生活環境も随分違うキルギスですが、三田さんには是非健康に気をつけて、日本語教育に取り組んでいただきたいと思います。

短期間で予想外に多くの希望者が現れたことにキルギス、カント校の担当者も驚き、日本語クラスをさらに拡大したいと教師募集の続行を強く希望しています。

## 日本語教師募集!

### キルギスの11年生学校「ピリムカナ・カント校」

キルギスから日本語教師募集のお知らせです。ビシケク郊外にある11年制学校で、この9月から全学年で日本語の学習を始めることになりました。

募集人数は1名ないし2名。やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません。給料は少なく、ほぼボランティアの条件ですが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

条件は以下の通りです。ご希望の方は、JICまでご連絡ください。

#### <条件>

受入校:ピリムカナ・カント校(私立の11年制学校)

所在地:ビシケク郊外(バスで約30分)のカント市

授業数:1授業40分×1日3授業×週5日

給料:月額150ドル

宿舎:ホームステイまたは学校の寮(1人部屋/無料)

\* アパートを希望する場合は自己負担。

特典:希望によりロシア語またはキルギス語の授業が無料で提供されます(40分授業×週3~4回)。

募集人数:1~2名

期間:17年11月~18年6月(希望により延長あり)

\* 現地では、伊藤広宣さん(キルギス人文大学・学長顧問)が世話人としてサポートします。

問合せ先:JIC 東京事務所 TEL:03-3355-7294

e-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

## \* \* JICのロシア語留学・研修 \* \*

29年間の実績「だから、JICのロシア語留学」

JICロシア語留学研修は、JIC国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この29年間でJICがロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて3,300名以上にのびます。

#### 安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様をバックアップするために、JICでは各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

## ロシア語長期留学4月生・募集中



締切間近です  
今すぐお申し込みを!

期間:2018年4月1日より10ヶ月

締切:2018年1月16日(火)

モスクワ国立大学 827,000円(授業料10ヶ月)

サンクトペテルブルグ国立大学 820,000円(授業料10ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 326,000円(授業料10ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などががかかります。

※極東連邦大学の締め切りは、12月22日になります。

#### ◆JICロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。

お気軽にお越しください。

東京事務所 平日9:30-18:00 03-3355-7294

大阪デスク 平日9:30-16:00 06-6944-2341

※留学相談は、必ず事前に予約してお越しください

## ◆◆編集後記◆◆

▼今号は、ロシア旅行記、報告記を特集しました。日ロ関係の好転を受け、ロシア旅行に出かける人の数は大幅な増加傾向にあるようです。JICではこれからもロシアの魅力を探りし、一味違う旅行を企画していきたいと思っています。▼新聞報道によれば、共同経済活動の一つとして、北方四島へのクルーズ観光の計画が持ち上がっているようです。乞うご期待です。▼旅行をきっかけにロシアの文化に触れ、もっと深く知りたいとのめり込む人を増やしたいものです。JICがこの秋お手伝いしたロシア映画祭もそのようなささやかな取り組みの一つです。(F)